

平成29年11月22日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校  
National Institute of Technology, Fukui College

### 目 次

ページ

1.はじめに	
教務主事から	2
教育後援会会長から	3
各学年の担任から	4~5
2.第53回体育祭	6~9
3.第53回高専祭	10~11
4.活躍する仲間	
平成28年度教育後援会研究奨励一覧	12
平成28年度教育後援会研究概要報告	12~15
第52回全国高等専門学校体育大会	15
第24回全国高等専門学校将棋大会	16
ふくい理数クランプリに参加して	16
5.学園通信	
平成29年度 第十回学生表彰受賞者	17~18
平成29年度 部・同好会指導教員・代表者一覧	19
本校に着任して	20~22
6.中学生の皆さんへ	
中学生だより	23



## はじめに



### 効率よく勉強をする？

教務主事 阿部 孝弘

技術士一次試験に合格するために効率よく勉強をするにはどうすればよいか？

TOEICで600点のスコアを取るために効率よく勉強するためにはどうすればよいか？

このように資格取得等をゴールにして効率よく勉強をする方法にはいろいろな書籍が出回っていて、自分の学習スタイルに合ったものを見つければ、効率よく資格取得というゴールを得ることができると思われます。

では、学校の定期試験でよい成績をとるための効率的な勉強方法はあるでしょうか。試験範囲がほぼわかっていて、過去問も図書館や先輩を通じて手に入ります。質問をしに行ける先生方や先輩、級友もいます。計画を立てて自己を律して、その計画通りに学習をすれば目標を達成することができるかもしれません。もしも、計画通りに学習できなかった場合は、次の試験で失敗を繰り返さないように計画を立て直して、それを実践することができます。目標が定期試験の点数をよくするということであれば、資格取得よりも多少手間暇がかかるかもしれないが、効率化することはできるでしょう。

さて、君たちの本当の目標は何か。福井高専に入学してきたということは、将来、技術者として社会に貢献することを目標にしているはずです。社会に貢献できる技術者とはどのような技術者なのでしょうか。人々の生活が豊かに、そして快適で安全になるような製品や構造物あるいは仕組みを作り出していくことができる人と定義できるかもしれません。しかしながら、このような人になることは、資格取得や定期試験のようにスコアや成績というような数値にならって表される目標のように具体的ではありません。結果が目に見えず、予測が難しい。

学校で学んだことだけで、社会を乗り切っていくことはできません。1年生の皆さんにはオリエン

テーションの時に述べましたが、学校で学んだことだけで仕事ができるのは5%程度であり、その後は生涯にわたって自己学習していかなければ、現在の技術革新に見合ったエンジニアとなることは難しい。学校で学んだことを畑として、種をまき、水や養分を自己学習を通じて与えてやり、大きな花を咲かせていくことによって社会に貢献できる技術者となれるでしょう。そのためには高専にいる今を大切にして、良い畑を作っていくことを常に念頭に置いて学生生活を過ごしてほしいと思います。

「先生、この問題の解き方を教えてください。解き方を覚えれば、この手の問題は解けるようになります。そのほうが効率よく勉強ができます。」と言つてくる人が時々います。資格取得だけを目指すだけならばこれでよいかもしれません。でも、社会に貢献する技術者を目指すのであれば、次の言葉をかみしめてみてください。「理解しただけではダメで、応用すること。意識しただけではダメで実践すること。」

将来のことを考えれば、資格取得は重要です。また、知識や能力を身につけていくために定期試験でよい成績をとることも大切です。でも、目標はそれにとどめずに、自分の将来としてください。5年後の自分、10年後の自分を予測して学習に励んでほしいと思います。予測するということは、「今はわからない」ということです。逆に、もしも、明日のことがわかつてしまったら、人生が面白くありません。わからないことにチャレンジしていくことが人生を歩むということではないでしょうか。

最後に、私が好きな言葉です。「一番楽そうな道が最善の道とは限らない。」今歩んでいる道が最善の道であるかどうかはわかりません。楽をせずに、最善の道となるように努力していくことが大切だと思います。

## はじめに



### 雑感

教育後援会会長 友 広 家 延

みなさんこんにちは。わたしは本年度教育後援会の会長を務めさせていただきます友広と申します。教育後援会として学校の活動に少しでもお力添えができるよう、教職員の皆様、保護者の皆様、関係者の皆様のご支援をよろしくお願ひします。

さて、高専に入られた方は、工学的な専門知識の習得を目指した方が多いと思います。将来の目標を科学技術の最先端で活躍する技術者としている方も多いでしょう。でも、そうは思っていても、目標のための必要な知識が、上手く自分に身に付くだろうかと不安を感じている方もいるかもしれません。

しかしそういう心配は全くいらないと思います。教育後援会を通じて感じたことですけれど、この学校で与えられる教育環境の中で、将来の目的を持って、たゆまぬ努力と熱意を持って勉強されるならば、それによって素晴らしい成果がみなさん自身に授けられることは請け合います。

また、皆さん自らの情熱がいかんなく発揮されるならば、教職員の方々は確実にそれを受け止め、皆さんの可能性を大きく伸ばしてくれるはずです。皆さんの先輩方はそうやって高専で育っていました。

でもなかには、今学んでいることがなんの役に立つかわからないとか、自分に必要なことなのか疑問に思っている、という方もおられるかもしれません。

そのような疑問は学びの真っ只中にある者には、たびたび生じることがあると思います。私の乏しい経験からいっても、わからない授業や、意味不明の公式や、興味のわかない課題には苦しめられることのほうが多いかったように思います。

私たちは、自分の理解しがたいものはどちらかというと価値なしと判断したがる傾向があります。どのように考えたほうが自分に負荷がかかりません

し、よほど今の自分でも理解できる実利的なことを覚えたほうが楽でいいと考えるのが普通です。

でも、そこには考え方によっては少し落とし穴もあるような気がします。それは、価値なしと判断しているのは今の自分であるということです。今の自分が見渡せる範囲で、今の自分でも理解可能な知識を習得することは、知識の量としては増えていますし、それだけでも大切なことですが、「私」自身を変えるような大きな変化はあまり期待できないような気がします。

高専で学ぶことは、これまでの自分とは異なる自分をつくりだすことです。今は訳のわからない自分が、わかる自分に変わるためにには、今の自分の基準を当てはめていては何も変化は起こりません。ブレーカスルーを生み出すには、一歩踏み出すジャンプが必要です。学んでいる途中で、悩んでいたり、これ全然わからんぜと嘆いているときは、ジャンプをするタイミングが来たのだと思います。それは一つのチャンスだともいえます。

皆さんにはあらんかぎりの力を振り絞って、思いっきりジャンプすることを期待しています。そして、その着地したところがどのような場所であろうとも、そこには新しいあなたが作り上げられているはずです。



## はじめに

### 各学年担任から

#### 学級担任から

1年担任 青木宏樹

1年生の皆さん、本校に入学して半年以上が経ちました。勉強や課外活動等、学校生活にも慣れたことだと思います。学校生活に慣れてくると時間や心に余裕もできてくるのではないかでしょうか。そんな時にぜひとも実践してほしいのが読書です。現在は、携帯電話や電子機器等の普及による「活字離れ」や「読書離れ」がさけばれています。一方で、先日ノーベル文学賞を受賞されたカズオ・イシグロ氏の著書は、受賞が発表された直後、書店で在庫がなくなり予約待ちの状態が続いたようです。また、毎年のようにベストセラーの書籍が注目され、100万部を超える売り上げ部数をほこる書籍もあります。このように、現在でも人々の興味関心が高い書籍は売っていますが、いずれにしても若年者の「活字離れ」や「読書離れ」は進んでいると思います。本を読むことにより、表現力が豊かになる、問題解決能力が身につく、論理力が向上する、表現力が向上する、コミュニケーション能力が向上する等、数多くのメリットが報告されています。皆さんも秋の夜長に読書をしてみてはいかがでしょうか？

#### たかが風、されど風

2年担任 東 章弘

台風でもない限り、普段はあまり意識することのない風向と風速だが、これを計測することがもっぱら陸上競技会での私の役割である。華々しいパフォーマンスを秒やセンチで直接測ることに比べるとなかなか地味なルーティンワークだ。たかが風、である。何年もやっているうちにいつしか風力計測主任となり、この夏、福井で日本インカレを迎えることになった。高専陸上部員も補助員を務めた。

この大会は来年の福井国体に向けたプレ大会で

あったが、何より100m走で日本人選手として初めての9秒台が期待された東洋大桐生選手のレースが注目された。直前のレースでは風向は北（追風）、秒速2m台の風が吹いていた。100m走では号砲の閃光から10秒間の平均風速を計測し、それをレースの風速とする。追風（+）が2mを超えると参考記録となり、公認されない。されど風、である。故に、タイムだけでなく風速にひときわ関心が向けられた。観衆が見守る中、桐生選手が1位でフィニッシュし、誰もが息をのんだそのとき、目に飛び込んできた速報表示盤のタイムと風速の整数部分は、9そして1（記録9.98秒、風速+1.8 m/s）。日本人が10秒の壁を破った歴史的瞬間であった。

国内でどれだけの陸上競技の審判員がいるのか知る由もないが、このような稀有な機会に審判をすることができたことは喜びの極みである。たかが風、されど風。それを測ることが地味なルーティンと思っていたことが恥ずかしく、培われたスキルは最高のチャンスを待っていると考えてみたい。

#### 現在と過去と未来の話

3年担任 五味伸之

担任として3年生とともに歩みだしてから早いもので半年の月日が経ちました。生まれて初めての担任業をなんとかこの半年間の間できる限りやってきましたが、ぜひとも学生の反応を聞いてみたいところ。まあいろいろと文句もあるのでしょうけど。自分としては、今まで学生主事捕や寮務主事捕といった学生に近いところで動いたこともありますが、やはり担任というのはちょっと特別なものがあるんだなあというのが、この半年間の実感というところです。

担任をやるにあたって、思い出して参考にしているのは自分が中学高校の時の担任だった諸先生方……ではなく一番話し相手になってくれた図書館司書の先生です。とにかくどんな話でも聞いて

## はじめに

くれようとしていること、一緒に新しいことをやってくれようとしたこと、学生の目線に降りていながら教員としての目線の高さを持ち続けていたことなど、今となって思い返すと今の自分より若い年だったのに様々な工夫をされていたんだなあと驚くばかりです(と、この間あった時にヨイショしておきました)。

あと言いたいことはといえば、担任とは嫌でも長く深く付き合うことになっていきますので、どうか良い関係を作ろうとすることをあきらめないでほしいなあと、教員側にも学生側にも思っています。これからも、無茶せず無理して慌てず急いでやっていきましょう。

## 進路選択に向けて

4年担任 川上由紀

先日、先輩講座を実施し、OB達に講演をしてもらいました。どのOBも卒業してたったの3年ですが、何だか大人になっていて驚きました。

あるOBは勉強・研究・趣味と毎日充実した生活を送っているようで、国際会議で世界各国へ行っている話を聞かせてくれました。また、あるOBは、就職活動のときには苦労したそうですが、いまは高収入でかつ自分のやりたい仕事ができていると幸せでした。さらに、来月には結婚する予定で、家を購入する準備をしているというOBもいました。うらやましい限りです！

それぞれのOBが、それぞれの道で頑張っていることを知り、幸せな気持ちになるのと同時に元気を貰えました。

4年生はインターンシップを終え、自分の進路について考えなければいけない時期になりました。自分が何をしたいのか、進学するべきか就職するべきか、どこの大学・企業に行くべきか、悩んでいると思います。私も学生のときに悩みましたし、いまでも模索中です。いろんな道がある中で、進路を一つに絞るのは大変かもしれません、しっかりと情報

収集をして、悩んで、自分が納得のいく方向を探し出してください。最終的に自分の道を決めるのは自分でです。

もちろん、相談はいくらでも受け付けていますので、学科学年問わず遠慮なく来てください。皆さんがどのような進路を選び進んでいくのかが楽しみです。

## 卒業に向かって

5年担任 田安正茂

5年生の皆さんには、卒業後の進路を確定するため、自分が歩いてきた高専4年間の道程を振り返る機会を得たことだと思います。進学や就職のための履歴書に志望動機や自己PRを記入するにあたり、途方に暮れた人も多いことでしょう。高専での学生生活を送る中で自分は何を為し得たのか。「書くことがありません」と言ってくる学生もいますが、4年間を何もせずに過ごしていたのでは、5年生になれるはずがありません。次のステージに進むために、自分の歩いてきた道程を深く振り歸ることは重要です。

1年生から4年生までの在学生は、高専での学生生活において何かを成し遂げるためにチャレンジして下さい。学校行事の運営に携わることや資格試験に挑戦するなど、避けて通ろうと思えば通れるものに対して積極的にチャレンジすることで、自分の中の何かが成長するはずです。その成長こそが社会に出て活躍するために必要とされているものなのです。

自分の中のやる気スイッチをONにできるのは自分だけです。やる気スイッチをいつでもONにできるようになれば、これから的人生において進むべき道を切り開いていくことができると確信しています。

高専での学生生活で身に付けなければならないことは、この「やる気スイッチ」の動きを良くすることなのだと思います。

## 第53回体育祭

# 第53回 体育祭

### 第53回 体育祭

学生主事補 村 中 貴 幸

4月28日、第53回体育祭が開催されました。ここ最近、恒例の？雨天順延で当初の予定から1日遅れの開催となりましたが、当日は汗ばむくらいの晴天のもと、競技に、応援に、デコレに躍動する学生たちの姿が見られました。

さて、今年の体育祭では何種目の競技が行われたか？答えられますか？競技が8種目（これは昨年よりも1種目増えています）、その他にエール交換とデコレ紹介、そして応援合戦が行われました。

朝9：00、吹奏楽部の軽やかな演奏とともに入場行進が始まり、16：25の閉会式までプログラムどおり、時間ぴったりの進行ができました。1000人を越える学生が参加する学校行事で、予定どおりの進行を行うのは簡単ではありません。もちろん参加したみなさんの協力があってのことですが、体育長の前田君を中心とした実行委員、そして学生会の皆さんの努力の賜物です。実行委員のみなさんは年明け早々から準備を始め、都合4回の団長・デコレ長会議を開催し、前週の土日はリハーサルまで行っています。

なぜ委員のみなさんはこんな大変な思いをしてまで裏方の仕事をやるのでしょうか？それは1つのイベントをやり遂げる達成感を味わいたいからだと思います。体育祭は楽しい行事です。わははっ！と笑顔で参加すれば良いと思います。加えて、みなさん一人一人が達成感を求めて参加すると、もっともっと盛り上がる体育祭になるのではないかでしょうか？そんな可能性を感じた今年の体育祭でした。

最後になりましたが、参観頂いた多くの保護者の方々、ご協力頂いた教職員のみなさんに、この場を借りて御礼申し上げます。

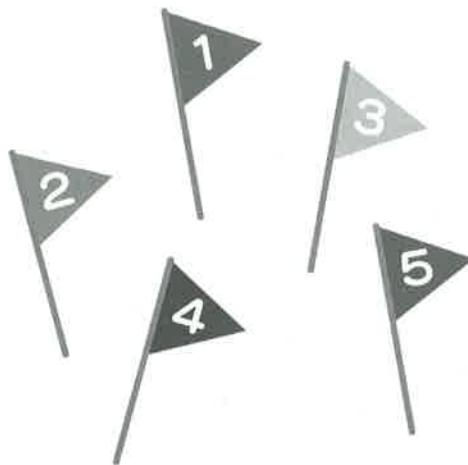
### 体育祭について

学生会体育長 3C 前 田 浩 翔

今年の体育祭では、朝方に雨がぽつぽつと降ってきて本当に体育祭ができるのか不安になりました。

しかし、開会式をする頃には太陽が出てきて素晴らしい晴天のもと、体育祭を開催することができました。体育祭が始まると、各色の方たちが春休みから取り組んできた応援やデコレの発表などがあり、皆さんのが長い時間かけた取り組みの集大成を見れたと思います。応援をやっている人は、真剣な顔やすぐく笑顔で応援発表をしていて、デコレの人たちは真剣な顔で発表していたことがすごく印象的でした。競技でも、自分たちの色を優勝させようと一生懸命に取り組み活気のある体育祭になったと思います。

また、多くの部活動の皆さん、体育委員の方々には、雨の中体育祭の準備を手伝っていただきました。そして参加した皆さん全員の協力のおかげで体育祭当日も予定通り進めることができました。本当にありがとうございました。来年の体育祭も今年以上に盛り上がるようご協力お願いします。



## 第53回体育祭



## 第53回体育祭



## 第53回体育祭

### 3度目の体育祭を終えて

環境都市工学科3年 鈴 崎 鳥 士

3度目の体育祭は、昨年に引き続き体育委員兼クラスの一員として参加した。体育委員の事前業務としては、体育祭に向け、クラス全員の参加競技の割り振りや、前日の準備、リハーサルを行った。

いよいよ体育祭当日。天候にも恵まれ、競技は順調に進行していった。当日業務としては、大旗リレーの補助員を担当した。どのチームも気迫あふれる快走であり、わが黄組も頑張っていた。体育委員としてとても忙しいなか、クラスの一員、黄組の一員として出場した綱引きは、負けてしまったけれど、みんなと一緒にできてとても楽しかった。

体育祭の目玉ともいえる各色の応援合戦では、どの組の応援も独自の工夫がされており、息もぴったりで、キレキレのダンスがかっこよく、目を引いた。

最終競技は色別対抗リレーであった。この日一番盛り上がり、息を飲むほどの接戦であった。こうして、体育祭は終わった。その後の片付けをしながら、今年の体育祭も終わったなど、体育委員としての役割も終わったなという達成感があった。

体育祭の中心は4年生である。先輩が、体育祭の随分前から練習に取組み、頑張って後輩を引っ張っていた姿を見てきた。来年は私たちが中心になる。先輩の様に出来るかどうか自信はないが、頑張って積極的に取り組み、私たちにとって心に残る体育祭にしたいと思う。

体育祭を終えた先輩が大きく見えた。

### 第53回体育祭成績一覧

#### 《部門順位》

種目	順位	1位	2位	3位	4位	5位
デコレ	白	緑	黄	赤	青	
応援	赤	黄	白	青	緑	
競技	黄	白	青	赤	緑	
総合	黄	白	赤	青	緑	

#### 《クラス順位》

		1位	2位	3位	4位	5位
学年別 総合成績	1年	黄	青	白	緑	赤
	2年	黄	青	白	赤	緑
	3年	赤・青	—	黄	白	緑
	4年	青	赤	白	黄	緑
	5年	赤・緑	—	黄	白	青



## 第53回高専祭

### 第53回高専祭

#### 難しい天気での高専祭

学生主事補 堀川隼世

本年度の高専祭は10月20日(金)から22日(日)に、テーマを「はなまる」と題して、開催されました。

本年度は天候が味方をしてくれず、台風が直撃する予報がある中での開催となりました。しかし、開催時間の間は雨が降ることなく、ゲストのカノエラナさんのステージや露店など、多数の来客で賑わった高専祭となりました。また、高専祭のホームページによる告知など、新たな取組を行った高専祭でした。最終日については、台風が直撃する予報となっており、開催が危ぶまれる中で、実行委員諸君の的確な判断の下、早い段階でのスケジュール変更が行われました。素早い決断だったため、メインステージを体育館に移動するという事が可能となり、台風の影響を最小限に抑える事ができました。長い期間をかけ、様々な準備を行なながらも、最終日の幾つものイベントを「取り止める」という決断をした実行委員諸君は非常に立派でした。学生諸君が今まで苦労して準備した企画が行えないことは、非常に悔しかったと思います。しかし、この決断は学生諸君のこれから糧となると思います。今年の高専祭は素晴らしいと感想です。終わった後の誇らしげな学生諸君がとても印象的でした。



#### 第53回高専祭を実施して

高専祭実行委員長 4C 私市篤哉

第53回高専祭実行委員長の私市です。今回の高専祭は6月から、実行委員総勢約120名で、「全員からはなまるをもらえる高専祭」を目指して準備をしてきました。今年から、企業様と合同で企画した「USEFUL CONTEST」やパンフレットのウェブページ化などを新たな取り組みとして行いました。新しい取り組みでしたが、皆さんにより良い高専祭を提供できたと思います。また、メインステージで行われたフリースタイルでも、多くの人が参加し、普段の学校生活では見ることのできない学生や先生方の一面を見る事ができました。その他企画でも、学生それぞれがその場を盛り上げ、一般の方にも楽しんでいただける高専祭になったかと思います。台風により高専祭三日目が一部中止になってしまったことは大変残念ではありますが、その他大きな問題もなく終了できたことを嬉しく思います。皆様にとって、今年の高専祭は「はなまる」であったでしょうか。皆様にとって「はなまる」な高専祭であったのならば、喜ばしい限りです。

高専祭に協賛してくださった企業の方々、協力してくださった先生方、参加してくれた学生達にはこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。来年の高専祭は必ず今年をも超えます。ご期待ください。



## 第53回高専祭



## 活躍する仲間

### 平成28年度 教育後援会研究奨励一覧

学科・学年	申 請 者	研 究 題 目	指導教員名	交付金額(円)
3B	岩崎 拓	全国高専デザインコンペティション 銅を用いた「単純支持橋」による戦略的思考を含む橋の制作	吉田 雅穂	100,000
4B	島脇 優里	全国高専デザインコンペティション 設計コンペに挑戦	野々村善民	60,000
5M	塙田 純太	全国高専デザインコンペティション(AMデザイン部門) 3Dプリンタを用いた安全・安心アイテムの開発	安丸 尚樹	150,000
3B	大原 裕也	全国高専デザインコンペティション メタルを用いた「単純支持橋」の模型の作製	樋口 直也	100,000
3C	小林菜桜子	福井県およびその周辺における地殻活動の研究	岡本 拓夫	35,000
3M	山本 翼	全国高専ロボットコンテスト 高専ロボコン出場ロボット「一貴弓」の開発	千徳 英介	150,000
3M	真柄 尚弥	全国高専ロボットコンテスト 高専ロボコン出場ロボット「福位一体」の開発	亀山建太郎	150,000
4B	山本 悠衣	高専PRコンテンツコンテスト 女子高生向けの高専機構のパンフレット製作	野々村善民	38,340
				計 783,340

### 平成28年度 教育後援会奨励研究概要報告

#### デザコンに向けたメタルブリッジの開発

環境都市工学科(平成29年3月卒業) 敦賀勇介

2016年12月17日～18日に、全国高等専門学校デザインコンペティション 2016 in Kochi の構造デザイン部門に参加しました。テーマは「丈夫で美しいブリッジ」で昨年の和歌山大会同様、銅を用いた橋梁の製作が課題でした。競技内容としてはメタルブリッジの模型を作成し、その模型の耐荷性能、質量、デザイン性を競うものでした。

福井高専からは「アイアンマン」と「賢-MASARU-」の2作品が構造部門にエントリーしました。私はアイアンマンを製作するチームで活動をしました。本選に応募できるチームは2チームで、当初福井高専では3チームのエントリー希望チームがありました。そのため、夏に本選と同じ条件で学内予選を行い2チームが選出されました。予選で落ちてしまった者もチームに加わり、アイアンマンは6人のチームになりました。

今回の製作物は銅線とハンダのみを使用し、支間

長900mmの単純支持の構造体を作るものでした。競技の方法としては、構造物のデザイン性、設計主旨等を審査する審査員審査と、最大荷重60kgで構造物の比強度を競う耐荷性能試験の2つでした。1作品のアイアンマンは自重5kg越えの重量級であり、とても本選に出せるような作品ではありませんでした。また、アーチ構造の作品が主流の中、ラーメン構造で製作したアイアンマンは削れる部分が少なく、他の作品と比べると重たい橋梁となってしまいました。

最終的にアイアンマンは自重1881.9gで、最大荷重である60kgに耐える作品になりました。本選の結果としては60作品中31位でした。最優秀賞の吳高専はアーチ構造で200g以下の作品で最大荷重を耐えており、やはりアーチ構造が最も適していました。反省しております。

今回の活動を通して、普段学んでいる知識の使い方や、専門外のことを調べることの大切さがわかりました。今後、福井高専がデザコンで活躍することを祈っております。

## 活躍する仲間

### デザコン2016

環境都市工学科4年 島脇 優里

昨年、私は初めてデザインコンペティション（デザコン）に作品を提出しました。

デザコンは、空間デザイン部門と創造デザイン部門、AMデザイン部門とプレデザコンの四部門あります。私が参加したのは空間デザイン部門です。この部門はポスターを出し、一次予選を通過した作品の発表を行います。

夏休みの長い時間を使って友達と試行錯誤を繰り返しました。何パターンものポスターを作り、一番いいと思ったものを提出しました。しかし、結果は一次予選を通りませんでした。

昨年の失敗を活かして、今年も参加することにしました。今年の作品は、昨年の作品を取り入れて、さらにバージョンアップしたものを提出しました。しかし、今年も一次予選を通りませんでした。

来年が最後のチャンスです。来年こそ一次予選を通過したいです。

### 3Dプリンタを用いた笛「コトリナ」の開発

専攻科生産システム工学専攻1年 小林 大貴

高知県の高知ぢばさんセンターで開催された、第13回全国高専デザコンに参加しました。中でも私が出場したAMデザイン部門では、安心・安全をコンセプトとした3Dプリンタを用いたアイテム開発が課題でした。

昨年の先輩チームは、眼鏡の耳掛け部の先端につけるレスキュー笛を出展しました。

今年はその経験を活かし、高齢者の方々が簡単な曲を演奏でき、緊急時にはレスキュー笛としても使えるミニオカリナ「コトリナ」の開発に取り組みました。

完成した笛は、左右3本の指（指孔6つ）で手軽に演奏ができ、1オクターブの音階が出せ、強く吹くと倍音（約3400Hz）のレスキュー音が出せるものになりました。笛の形状もタイの留学生の提案で、タイ料理のトムヤムクンに入っていることで有名なマメ科の植物の実「タマリンド」の形状にし、子供

の興味を引き、高齢者と子供とのふれあいを狙いました。

入賞することはできませんでしたが、企業の方との意見交換やタイの留学生とのコミュニケーション、他の高専生の作品についての討論・相互評価など、貴重な経験ができました。また、出展した際に3Dプリンタメーカーから意見や評価もいただき、次のものづくりに対する活力を得ることが出来ました。最後になりましたが、支援をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

### 「デザコンって楽しい！」

環境都市工学科5年 山貫 繁称

私たちは、2016年12月17日～18日、全国高等専門学校デザインコンペティション2016 in Kochi 構造デザイン部門に福井高専代表として参加しました。内容は支間長900mmで単純支持形式のメタルブリッジの作製でした。

私たちチームNKNKの3人は、昨年度のデザコンにも参加していました。初出場にして17/55位という成績でしたが、上位のレベルの高さを感じ悔しい思いをしました。本年度は昨年度から製作条件が変更され、製作技術以外はまた一からのスタートでした。賢い・勝る形状を目指し「賢-MASARU-」と名付けたブリッジは校内予選で一度も最大荷重の60kgに耐えず、作っては壊すことを何度も繰り返しました。

個人的に、昨年よりはるかに忙しい4年生の生活とデザコンを両立させることは予想以上に大変でした。しかし、新たに3年生が加わると、製作スピードが速く精度は良くなり、最後にはこれ以上軽量化をするべきかで悩み、出発当日まで全員で製作し続けました。結果60kgに耐え、16/60位、私が担当したプレゼンも47/50点と昨年より高得点でした。

入学前からやりたかったデザコンに2年間参加できたのも、先生方やメンバーのご協力のおかげです。

来年度はもっと校内でデザコンが人気になっていてほしいです。

## 活躍する仲間

### 福井県及びその周辺の地盤活動の研究

地球物理学研究会 3C 小林 菜桜子

私たち地球物理学研究会は、この奨励研究で地震活動や地盤特性について観測と研究を行い、特に福井県での地震活動と地球電磁気現象との関連性について統計的に調べています。本年度も昨年度に引き続いて、研究の一環として地震発生時の減災を目的とする地震の情報を流す防災ラジオの作製にも取り組みました。

観測活動では、観測装置のメンテナンスとデータのダウンロードを池田町の今立郡池田町観測室で行いました。更に、現在西山公園内に地震計を設置しており、この西山公園での地震計のデータを定期的に交換し、物理教室で解析用フォーマットに変換しています。また、本年度は河合小学校に新しく地震計を設置し、そこでの観測も行っています。

本年度は、SSH参加校である藤島高校などと交流を深めました。来年度にはもっと交流を深め、SSH参加校と共同研究を進めていければいいなと考えています。

東日本大震災という大地震から6年の年月が過ぎ忘れていく人が多くなっていきますが、いつまたあのような地震が来るかわかりません。福井地震(1948, M7.1)のような地震もいつか再び福井に発生するかもしれません。私たちは研究により地震を予測することで、少しでも被害を小さくしていきたいと考えています。だから、これからも地震についての研究に取り組んでいきたいと思います。ちなみに、来年度は福井地震から70年になります。

### 高専ロボコンに出場して

機械工学科3年 山本 翼

本研究では「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2016ニュー・フロンティア」に出場するためのロボットの製作を行いました。今年度のルールは「箱積み」です。箱をより高く積んだほうが勝ちとなります。

ロボットは、4台製作しました。1台目は港町と呼ばれるゾーンでブロック置き場から箱を運び指定された形に箱を積むロボットの蟹祭(カーニバル)。2台目は、海に橋を架けるロボット進海(しんかい)。3台目は、進海の上を港町から新大陸まで箱を運ぶトロッコ。4台目は、新大陸でより高く箱を積む福音(ふくね)です。

箱を時間内に高く積むためには、8kgの物体を3.5mの高さまで高速で昇降させることができる高出力モータが必要でした。そこで、これまでに使用したことのないマブチモーター社のRZ-735VAを採用し、そのためのモータドライバを開発しました。モータ電源が絶縁され、許容電流が大きく(85A)さらに、ロボコンで利用できる最大電源電圧24Vの入力可能、シリアル通信を用いた制御などを実現しました。また、開発したモータドライバを制御するためのメインのコンピュータとしてArduino UNOを使用しました。モータドライバや、電磁弁、センサ類をマイコンと接続し、1つのI2Cバス上に配置し、マスターからのデータの送信やリクエストによって、制御を行い、様々なデバイスに対応させました。

このような技術開発は、全国大会出場という結果に結びつきました。日頃から活動を応援していただいた皆様に感謝いたします。また教育後援会のご支援に御礼申し上げます。次の大会においても全国大会へ出場できるように頑張ります。

### ロボコンを終えて

機械工学科4年 松田 英孝

私たちBチームは「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2016ニュー・フロンティア」に出場するためのロボットを3台作製しました。今回のルールは接地禁止エリアを挟んで港町・島・新大陸という3つに分かれているエリアをまたぎ、ボックスを運搬し、最終的により高く箱を積み、シンボルを置いたチームの勝ちとなります。

今回Bチームは「九頭竜」というチーム名で参加し、ボックスを回収し積み上げるロボット「マザウルス」、「ファザウルス」の2台、エリア間を移動するためのロボット「夫婦橋」の計3台を作製しました。

アームによってブロックを回収、積み上げるロボットの「ファザウルス」、「マザウルス」にはラックやピニオンを用いてボックスを「掴む」動作を実現させ、また、アームの幅を自由な長さに調節可能にし、一度にブロックを複数所持することができました。移動手段に細かい動作が可能となるメカナムホイールを使用しました。

移動手段となる「夫婦橋」は別々に分かれてるエリア間を繋げる「橋」のような役割を果たします。展開することによって、接地禁止エリアをまたぎ港町・島・新大陸をつなぐ橋となります。この上に乗り他2台が移動します。

## 活躍する仲間

すべてのロボットの通信方法は、Bluetoothもしくは920MHz帯を使用しコントローラーとロボットを接続しました。

大会の結果は2回戦出場で終わりましたが、チームメンバーだけでなくOBや先生をはじめとする多くの学校関係者や家族からの多大な協力と応援があってこそロボコンができたと感じます。本当にありがとうございました！

### 宇宙工学を通して学んだこと

機械工学科4年 渡辺 虎生太

僕は、去年の初夏から、宇宙工学を学習するための教材兼競技である、Cansatの作成を目的とする活動を始めました。

しかし、初の機体の作成のため、右も左も分からない僕たちは、集団でプロジェクトを進めるノウハウを文献などから得ながら、機体作成を目標に話し合いを行いました。また、Cansatに取り組む多くの高校生たちが集まるCansat甲子園の見学や、四

国で行われた高専スペースキャンプへの参加などを経て、Cansat作成の方法や、大人数で効率的に作業するノウハウを得ました。

その結果、僕たちの最初のミッションは決定し、機体の試作と実験を繰り返し行いました。また、途中からCansatプロジェクトと関連性の深いバルーンサットプロジェクトにも着手しました。途中から、Cansatよりもこちらのプロジェクトの方に力が入ってしまったのですが、このプロジェクトでは、Cansatと関連が深い分、これまでに得た知識を生かすことができ、円滑に作業を進めることができました。その結果、成層圏からの地球撮影というミッションを成功させることができました。

このプロジェクトが成功できたのは、Cansatプロジェクト開始から今に至るまでに得た、集団でプロジェクトを進める様々なノウハウがあったからだと感じています。また、これからは途中でバルーンサットと入れ替わってしまったCansatプロジェクトに再び着手し、様々な技術を吸収していきたいです。

## 第52回全国高等専門学校体育大会

### 全国大会に出場して

卓球部 5C 鈴木 優

私は、7月の北陸地区大会でシングルス、ダブルスの全国大会出場の切符を手にいれ、8月19、20日に茨城県で開催された、第51回全国高専体育大会卓球競技に参加した。今回の全国大会の目標は「シングルス優勝」、「ダブルス入賞」であった。

過去、全国大会に出場した際に、他の選手に自分の弱点を分析され、惜しくも負けてしまったことがあった。そのため、今回は地区大会を終え全国大会までの1ヶ月間に自分の弱点を克服し、対戦相手の弱点を分析するなど、出来る限りの準備をして大会に挑んだ。

最初にダブルスが行われた。4E1護城とダブルスを組むのは初めてで、思うようにフットワークが出来ず練習で苦戦することもあった。予選リーグは3勝で1位通過し、決勝トーナメントへ進んだ。トーナメントで優勝ペアに敗れ、3位決定戦で広島商船のペアとの対戦となった。長いラリーが続き、緊張感が高まる中、得意のサーブで相手のミスを誘い、勝つことが出来た。

次に、シングルスが行われた。ダブルスの試合の後であったため、緊張せず試合に挑むことが出来た。予選リーグは3勝で1位通過し、決勝トーナメントへ進んだ。1戦目は相手のミスが多かったため楽に勝つことが出来たが、決勝戦では相手のミスが少なく、自分のミスで失点が増えた。ボールに変化をつけて返球することで相手のミスが増え勝つことが出来た。

今回は全国までの1ヶ月間に練習試合や大会が多かったため練習量が自然と増え、大会への意識も高まり、質の高い練習をすることが出来た。そのため、試合中も自信を持ってプレー出来た。今回の経験を生かして、次の目標に向けて質の高い練習を積み重ね、もっと活躍できるよう頑張りたい。



## 活躍する仲間

### 第24回全国高等専門学校将棋大会

電気電子工学科4年 小田樹也

私は8月23日～25日にかけて行われた第24回全国高専将棋大会（以下、高専大会）において団体の部で出場し準優勝した。これは16年ぶりの快挙である。この準優勝するまでの流れを振り返る。

私が高専に入学する約10年前は高専大会で優勝している強豪校だった。しかし、年々部員が減っていき私が入る1年前は部員1人で廃部寸前だったと聞いている。原因として強い子たちは勉強ができる子が多く、高確率で藤島高校に行ってしまうことが考えられる。実際に入部しても強い子が1人しかいないと練習相手が居ないという問題も生じる。結果強豪校にばかり強い子が偏り弱小校は相対的に弱くなるという悪循環が生まれる。

私が2年の時に現4EIの奥田君が入部してくれたことで数々の実績を残すことができ、いつしか強豪校の仲間入りをしていた。その後有段者である井上君と谷川君が部に加入することになり、2回目の黄金時代のような時期が続いた。しかし、なぜか高専大会ではいつも予選落ちだった。高校生の大会で活躍することも勿論重要だが高専生である以上、皆高専大会で活躍したいと考えている。

今回の大会は私が大将、井上君が副将、谷川君が三将という布陣で臨んだ。考えられる上で最強の布陣ではあるが去年は同じ布陣で予選落ちしている。

しかし、今回に限っては鐵運に恵まれた。高専大会予選は1回でも負けると予選敗退が決まる非常にシビアな仕組みである。いつもは優勝候補に負けて予選落ちだったが、優勝候補である奈良高専と富山

高専が同じ組ではなかった。また、前夜祭で大会出場選手が公開されたため全て検索したが予選で当たる可能性のある選手に有段者は居なかった。結果、予選は3人とも難なく全勝通過をることができた。

準決勝の相手は苫小牧高専だった。3年前の高専大会で3位だった古豪である。警戒すべき選手も居るため一筋縄ではいかない相手である。結果として2勝1敗でチームとしては勝つことができた。

決勝戦は奈良高専だった。奈良高専は約4年間連続で優勝しており、3年前にはAチームBチームで優勝・準優勝をしているほど他の高専と比べて頭一つ抜けている。大将は五段の選手であり三段の私では非常に厳しい相手である。

実戦は私が研究している内容に引き釣り込もうとするのに対し、相手が誰も研究していない分野に引き釣り込むことで定跡から外れた肉弾戦となった。将棋は1つのミスで一気に勝負がつくことがあり、私が選んだ戦形はその代表格である。そのため肉弾戦といつても実際は両方の首元に刀を突きつけられているような状態である。持ち時間をフルに使って応戦したが、力量差から私が先にミスをして一気に勝負がついてしまった。同じく副将が負けてしまつたため1勝2敗で負けてしまった。

将棋指しに對局で楽しかった瞬間はと聞くとほぼ必ずぎりぎりの対局で勝つか負けるかの駆け引きをしているときと答える。高専に入ってからなかなかそういう機会に巡り合わせず、いつしか将棋に対する熱が冷めていた。そんな中、今回の対局は私の熱が再燃するものだった。負けてしまったことは悔しいが次も楽しい対局を求めて私は指し続ける。

根気よく問題に取り組みました。

次の18日の本選では、ボイルの法則を基にした圧力計の製作、それを用いた真空ポンプの特性調査を行い、それに関するプレゼンを行いました。プレゼンでは、スライドの見やすさ（マジック使用など）、プレゼン時間など注意をしました。その甲斐もあり、私たちは「最優秀賞」をいただきました。

「理数グランプリ」には学校でしないような興味深い実験がたくさんあります。1年生の皆さん、是非来年参加してみませんか。



### 「ふくい理数グランプリに参加して」

電気電子工学科2年 江守祐樹

9月10日、18日に、私は同じクラスの岸本陸君、品野愛海君と「ふくい理数グランプリ」の「高校部門（物理グランプリ）」に参加しました。このグランプリは、学生たちにもっと理数系の分野に興味関心を持ってもらおうということで10年前に始まり、数学、物理、化学、生物、地学の5部門があって、数学以外は3人1組で参加します。

まず、10日のチャレンジステージでは、力、圧力、大気圧に関する、実験を交えながらの講義を受け、その後に問題に取り組みました。もちろん、問題は学校の定期試験のような数分で解けるようなものではありません。説明させる問題が半分で、中にはアイデアを問うものもありました。しかし、私たちは、

## 平成29年度 第1回 学生表彰受賞者一覧

(学科・学年は、平成28年度のものです。)

### ☆校長特別賞

その他課外活動において特に顕著な成果(第3条第1項第1号課外活動⑤)

#### 第10回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(プレゼンテーション部門)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
電子情報工学科5年	三田 竜大	物質工学科5年	木下明日香	物質工学科5年	宮地 優彰

#### 第51回全国高等専門学校体育大会優勝(第3条第1項第1号課外活動①)

学科・学年	氏名	備考
物質工学科5年	鈴木 優	卓球部(女子シングルス)

### ☆校長賞

#### 1年間学業成績優秀者(第3条第1項第2号正課①)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
機械工学科5年	小濱 真宏	機械工学科5年	釜本 耕多	電気電子工学科5年	西村 流
電気電子工学科4年	窪田 圭佑	電気電子工学科4年	津谷 龍一	電気電子工学科4年	椿 大弥
電気電子工学科4年	松田 尚大	電気電子工学科4年	松本 大輝	電子情報工学科4年	高木 誠
電子情報工学科4年	松村 大輝	電子情報工学科4年	石本 優太	物質工学科4年	三池 寧弥
物質工学科4年	藤田 結衣	機械工学科3年	川崎 彰大	機械工学科3年	眞柄 尚弥
電気電子工学科3年	山本 真嘉	電子情報工学科3年	向井 玲椰	環境都市工学科3年	内藤 祐大
環境都市工学科3年	市橋 有咲	電気電子工学科2年	江守 祐樹	電気電子工学科2年	達川 卓輝
電子情報工学科2年	安達 一生	電子情報工学科2年	野村 風雅	物質工学科2年	荒井 結希
物質工学科2年	玉村 彩友	環境都市工学科2年	井波 大地	環境都市工学科2年	達川 宙輝

#### 学習到達度試験優秀成績者(第3条第1項第2号正課③)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
電気電子工学科4年	松田 尚大	電気電子工学科4年	津谷 龍一	電気電子工学科4年	松本 大輝
電気電子工学科4年	窪田 圭佑	電子情報工学科4年	松村 大輝	電子情報工学科4年	山本 雄太
物質工学科4年	橋本 貴幸	電子情報工学科4年	増田 章一	電気電子工学科4年	椿 大弥

#### TOEICにおいて成績優秀者(第3条第1項第2号正課③)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
生産システム工学専攻2年	水野 優	環境システム工学専攻2年	小笠原 優	電子情報工学科4年	イカシマハジロカバノル
電気電子工学科5年	モリタカツヒコモリタカツヒコ	物質工学科5年	宮地 優彰	電気電子工学科3年	山本 真嘉
電子情報工学科5年	大柳 康悟				

#### その他の課外活動において優秀な成果(第3条第1項第2号課外活動③)

学科・学年	氏名	備考
電子情報工学科3年	谷川 友基	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度福井県高等学校将棋選手権大会 団体優勝</li> <li>・第29回全国高等学校将棋竜王戦福井県大会 A級 準優勝</li> <li>・第25回全国高等学校文化連盟将棋新人大会福井県大会 優勝</li> </ul>

## 学園通信

### 第51回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(第3条第1項第2号課外活動①)

学科・学年	氏名	備考	学科・学年	氏名	備考
電気電子工学科4年	鈴木 朋和	陸上部(男子走幅跳)	機械工学科5年	北川真由子	卓球部(女子団体)
物質工学科5年	鈴木 優	卓球部(女子団体)	環境都市工学科5年	山貴 緋称	卓球部(女子団体)
電子情報工学科4年	護城 歩	卓球部(女子団体)	環境都市工学科4年	黒河雅菜代	卓球部(女子団体)
環境都市工学科3年	井山 棕香	卓球部(女子団体)	物質工学科5年	鈴木 優	卓球部(女子シングルス・ダブルス)
電気電子工学科5年	又農 智史	水泳部(男子団体)	機械工学科4年	奥山 瑠星	水泳部(男子団体)
機械工学科4年	山根 圭悟	水泳部(男子団体)	電子情報工学科4年	横坂弘太郎	水泳部(男子団体)
環境都市工学科4年	立壁 涼虎	水泳部(男子団体)	機械工学科3年	佐々木祐輝	水泳部(男子団体)
電子情報工学科3年	西島 晴玲	水泳部(男子団体)	電子情報工学科3年	三村 歩	水泳部(男子団体)
環境都市工学科3年	定兼 拓永	水泳部(男子団体)	環境都市工学科4年	立壁 涼虎	水泳部(男子個人200m自由形 400m自由形 400mメドレー・リレー)
機械工学科3年	佐々木祐輝	水泳部(男子個人100m平泳ぎ 200m平泳ぎ 400mメドレー・リレー)	環境都市工学科3年	定兼 拓永	水泳部(男子個人200m個人メドレー 400mメドレー・リレー)
電子情報工学科3年	三村 歩	水泳部(男子個人400mメドレー・リレー)	物質工学科5年	八田 朱里	水泳部(女子団体)
物質工学科4年	須藤はるか	水泳部(女子団体)	環境都市工学科4年	山本 悠衣	水泳部(女子団体)
電気電子工学科3年	蓑輪 奈穂	水泳部(女子団体)	環境都市工学科3年	木戸 美月	水泳部(女子団体)
環境都市工学科2年	橋本 莉乃	水泳部(女子団体)	環境都市工学科2年	小森加奈子	水泳部(女子団体)
物質工学科5年	八田 朱里	水泳部(女子個人100m自由形 200mリレー)	環境都市工学科2年	橋本 莉乃	水泳部(女子個人200mリレー)
電気電子工学科3年	蓑輪 奈穂	水泳部(女子個人200mリレー)	電子情報工学科5年	早瀬 夏貴	剣道部(女子団体)
環境都市工学科4年	田中真紀子	剣道部(女子団体)	物質工学科3年	佐々木まどか	剣道部(女子団体)
環境都市工学科2年	西村 心	剣道部(女子団体)	環境都市工学科2年	西村 心	剣道部(女子個人)

### アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2016東海北陸地区大会「技術賞」受賞 (第3条第1項第2号課外活動②)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
機械工学科5年	小濱 貞宏	機械工学科5年	吉村 昇紘	電子情報工学科5年	藤戸 貴大
機械工学科3年	松下 英都	機械工学科3年	山本 翼	電子情報工学科3年	大瀬由符音
電気電子工学科3年	林 裕己	機械工学科3年	山川 凌	機械工学科3年	齋藤 韶

### 第3回G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール「シビックプライド賞」受賞 (第3条第1項第2号正課⑤)

学科・学年	氏名
環境システム工学専攻2年	岡田 拓樹

### 第40回全国高等学校総合文化祭(吟詠剣詩舞部門) 優秀賞

(第3条第1項第2号課外活動③)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
環境都市工学科3年	鳥山 佳音	物質工学科2年	土山 凜

### オムロン・高専機構共同教育プロジェクト平成28年度生産技術コンテスト優勝

(第3条第1項第2号課外活動③)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
機械工学科4年	長田 一樹	機械工学科4年	山口 淳太

## 学園通信

## 平成29年度 部・同好会指導教員・内部コーチ及び代表者一覧

部門	部・同好会	指導教員	代表者
体 育 部 門	陸 上	東 章弘 山田 哲也	○ 4E 鈴木 朋和
	卓 球	山本 幸男 西城 理志 青山 義弘 坪川 茂	○ 5C 有田 翔 △
	男子バスケットボール	米田 知晃 藤田 卓郎 阿部 孝弘 松井 一洋	○ 4B 篠地 叢生
	女子バスケットボール	後反 克典 江本 晃美	○ 4C 山田 美空
	ラグビー	吉田 雅穂 山田健太郎	○ 4B 松田 健吾 △
	サッカー	長水 壽寛 佐々 和洋	○ 5M 藤村 教輔
	野 球	奥村 充司 辻野 和彦 青木 宏樹	○ 3E 出藏 祐志 ○
	男子バレー	村田 知也	○ 4M 白川 顕教
	女子バレー	山本 裕之 金田 直人	○ 5B 佐々木香奈
	バドミントン	斉藤 徹 小越 咲子 西野 純一 上島 晃智	○ 4EI 増田 章一
	テニス	吉田 三郎 長谷川智晴 松野 敏英	○ 4EI 田中 一輝
	ソフトテニス	佐藤 勇一 小松 貴大	○ 4M 松崎 将太
	柔 道	五味 伸之 相場 大佑	○ 3EI 上島 成稀
	剣 道	中谷 実伸 丸山 晃生 手嶋 泰伸 堀川 隼世	○ 3M 道上 隼豊
	ハンドボール	川村 敏之 芳賀 坪川 正和 光夫	○ 5M 釜本 恭多 △
	空 手	村中 貴幸 辻子 裕二	○ 2B 岸本 拓海
	ソフトボール	田安 正茂	○ 5EI 澤崎 翔
	少林寺拳法	岡本 拓夫 川上 由紀 堀井 直宏	○ 3EI 今澤 太喜 △
	水 泳	加藤 敏西 仁司	○ 4M 山根 圭悟
	合 気 道	松井 栄樹 佐藤 匡 松浦 徹	○ 3C 佐野 勇輔
	軟式野球	伊勢 光野 々村善民	○ 3B 岩崎 晃也

○は指導教員連絡責任者 △は内部コーチ

部門	部・同好会	指導教員	代表者
文 化 部 門	英 語	吉田 三郎 原口 治	○ 4M 久野万由子
	モダンミュージック	森 貞	○ 4E 松居 謙真
	吹 奏 楽	小越 咲子 荒川 正和 森 貞 岡本 拓夫 白崎 恵子	○ 4EI 小林 華奈 △
	エレクトロメーリング	松浦 徹 佐藤 匡	○ 5E 橋本 祐也
	囲碁・将棋	原口 治 山田 哲也 伊勢 光	○ 3EI 谷川 友基
	ロボット	亀山建太郎 千徳 英介 村田 知也	○ 4M 明成 昌秀
	天 文	岡本 拓夫	○ 3C 山下 夢奈
	茶 道	宮本 友紀 平井 恵子	○ 3C 山本 紗
	IT研究会プロフォ	西 仁司 斉藤 徹	○ 3EI 永田 篤矢
	日本現代視覚文化	東 章弘 岡本 拓夫	○ 3B 西田 莉歩
	V I P サイエンスクラブ	高山 勝己 長谷川智晴 挽野 真一	○ 1ES 釜井 剑 ○ 4M 奥山 瑠星
	フットサル	坪川 武弘	○ 5B 後藤 良知
	放送・メディア研究会	西 仁司 中村 吉秀	○ 4EI 川崎 美柚
	自 転 車	西城 理志	○ 3B 酒井 大翔
	ダ ン ス	宮本 友紀	○ 4E 仕子 朱音
	TH E 研究会	山本 幸男 藤田 克志 田安 正茂	○ 5E 発坂 卓行
	コマ撮り動画研究会	小松 貴大	○ 4E 小山田瑞季
	美術同好会	山本 裕之	○ 3B 鳥山 佳音
	音鍵研究会	川上 由紀	○ 3E 谷口 真一
	Structural Design研究会	樋口 直也	○ 3B 大原 裕也
	スポーツクライミング	長谷川智晴 岡本 拓夫	○ 2C 宮田 陽菜
	写 真	伊勢 光	○ 2C 牧野 佑香
	アマチュア無線研究会	東 章弘 斉藤 徹	○ 2E 市原 稔大
	グラフ電卓研究会	坪川 武弘 柳原 祐治	○ 3EI 山浦 直樹
	珈 球	原口 治 荒川 正和	○ 5E 田中 涼太
	空間デザイン研究会	野々村善民	○ 4B 島脇 優里
	小型機器人工衛星同好会	西城 理志 亀山建太郎 千徳 英介	○ 4M 渡辺虎生太

## 学園通信

### 本校に着任して



#### 3人目の松浦です

電気電子工学科

松 浦 徹

今年度より電気電子工学科に着任した松浦です。もともと電気電子工学科には、非常勤の先生も含めて2人松浦先生がいらっしゃるので、私で3人目の松浦となります。

私は福井高専のOBです。22年前に電気工学科(今の電気電子工学科)に入学し、5年間寮生活をしていました。高専では、ロボコンに挑戦したり、人が乗れるソーラーカーを作ったり、ロケットを飛ばしたり、アメリカ研修に行ったり…と、高専ならではの楽しい思い出がたくさんできました。

高専卒業後は、より基礎科学的なことを知りたくなり、大学編入することにしました。遠くに行ってみたい、という気持ちもあって札幌にある北海道大学に行き、大学院終了後も研究員や教員として北大に勤めていました。一旦遠くに行ってみたものの、今度はなかなか本州に帰るチャンスがなかったのですが、この度、福井高専にご縁を頂き故郷に戻ってくることが出来ました。

専門は電子物性という分野で、物質の中の電子の振る舞いを調べる研究をしています。4月に着任してから、測定器や液体窒素容器などを徐々に集め、一通りの実験設備が整ってきました。これから卒研究生達と実験できることを楽しみにしています。



#### キャンパスリサーチの舞台“裏”

物質工学科

松 野 敏 英

こんにちは。平成29年4月に福井工業高等専門学校、物質工学科の講師に着任しました松野敏英です。

「君たちがキャンパスリサーチを仕切るんだ」私に言われて、学生は嫌がっていた。彼らは物質工学科の4年生である。どうやら自分たちの役割を手伝い程度に思っていたようだ。

読者のみなさん、福井高専が10月に行うキャンパスリサーチをご存知だろうか。これは中学生に学校紹介するイベントである。特徴は、体験を通して学科を知ること、そして、4年生が当日を仕切ること。ここでは、この舞台“裏”をご披露したい。

ぶつけ本番とはいかない。練習である。本番の2日前からはじめた。「声が小さい」「セリフに詰まる」「段取りがよくない」見ているこちらの頭が痛む。教えてできるものではない。繰り返しの中から自分で見つけだす。次の一手を先読みして、行動する。仲間との呼吸が大切である。幸いにも彼らは日頃から意思疎通ができているようで、そのあたりのセンスがよい。連日の練習は、まずはの仕上がりを見せた。合間に、自分のセリフを手直しする姿、仲間と手順を確認し合う様子があった。やるからにはよいものをつくりたいと一生懸命だ。

すべての学生は「伸びる潜在能力」がある。現状に満足するな。自分で「この程度でよい」と思わず、若い芽をぐんぐん伸ばしてほしい。舞台裏では多くの学生諸君に手助けいただいた。紙面の都合で登場していないが、感謝の気持ちいっぱいである。この文章を読んで、“表”舞台を見たいと感じていただけたら、筆者としてこれ以上の喜びに勝るものはない。彼らの情熱をその目でご覧いただきたい。



#### 下手の横好き

一般科目教室（自然科学系）

松 井 一 洋

本年度より体育担当として着任しました松井一洋です。早いもので、福井での生活が始まって半年が過ぎました。ジャージ姿で歩いていると学生だと間違われていた前期は、とにかく何もかもが新鮮で、驚きの連続だったように思えます。先生方、職員の皆様に支えていただき半年経って、ようやく気持ちの面で驚きに対しての心構えができはじめました。きっと後期も知らないこと、初めての経験ばかりなのだろうと不安半分楽しみ半分です。

体育教員ということで、周りから運動系イベントへの期待を少なからず感じます。バスケットボール

## 学園通信

部の顧問になりました。期待していただけたことはありがたいのですが、残念ながら私は運動が得意ではありません。跳躍力もない、足も遅いし持久力もない。つまるところ、ただ運動が好き、バスケットボールという競技が好きなだけなのです。専門分野のスポーツ科学・バイオメカニクスも、スポーツ・競技が上手いからではなく、上手くなりたいけれど上手くならないからという理由で興味を持ちました。我ながら自分は偏屈な人間だと思っています。

そんな偏屈な私に、もっと福井高専の才モシロを教えてください。そしてその才モシロの仲間に⼊れてください。皆様、今後ともご支援、ご指導よろしくお願いいたします。



### 九月ばかり、 蜘蛛の巣に思う

一般科目教室（人文社会科学系）

門屋 飛央

平成29年9月1日付で一般科目教室（国語）に着任した門屋飛央と申します。こちらに赴任して以来、教職員の方々、学生の皆さんのが、とても明るく、親切に接してください、とてもありがとうございます。

私が福井に来て何より驚いたのは、蜘蛛の巣です。郷里の福岡では、ここまでどこにでも巣を張りません。玄関の上に蜘蛛の巣。歩道に蜘蛛の巣。朝停めた自転車に蜘蛛の巣。朝起きて窓を開けると蜘蛛の巣。いつのまにか蜘蛛の巣が張られています。このような些細なことからも、私がこれまで慣れ親しんだ土地を離れ、新しい地へ踏み出したのだと感じられます。

長崎県五島列島の宇久町では、「蜘蛛」のことを「コブ」と言います。『日本言語地図』をみると、福井県嶺北では「クボ」と言うようです。これらのことから、kumo>kubo>kobuという語形変化がわかります。これからぜひ福井県の方言も勉強したいです。

学生の皆さんには、考える力を養ってほしいと思っております。「なぜ」と問い合わせ続けることは、皆さんを大きく成長させてくれます。この考える力の基礎に国語力があります。皆さんに、しっかりと国語を学んでほしいと思います。

まだ慣れないこと多く、ご迷惑をおかけすることも多いと存じます。これから誠心誠意努力いたし

ますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



### 第二の故郷！

学生課長

川端 敏隆

4月1日付けで現職を拝命致しました川端です。平成6年度から5年間を福井高専で勤務させて頂いた経歴がありますが、この度約20年ぶりの凱旋に懐かしさを隠せません。当時は30代前半で若さを武器に怖いもの知らずに飛び込んで参りましたが、今回は昔の私を知る方々が多々勤務される中を恐る恐る着任致しました。大学で学んだ組織運営力を発揮して、教職員の皆様と福井高専の発展に寄与したいと存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



### 人生！日々勉強

総務課 人事労務係

萬 康明

7月1日付けで着任しました萬康明です。

前職でも人事系の業務をしていましたが、「所変われば～」という諺にもあるように、同じ人事系の業務でも似て非なるもので、日々悪戦苦闘しております。しかしながら、新たなフィールドで学ぶことも多く、今は一つ一つ吸収して、それを教職員の方々に還元していきたいと考えています。人生の折り返し地点を過ぎようとしていますが、まだまだ発展途上の気持ちで、業務に精進したいと思います。どうぞ、厳しくも温かいご指導をいただけますと幸いです。



## 学園通信



### 本校に着任して

総務課 契約係長

山崎 純子

はじめまして。7月1日付けで、福井高専に勤務することとなりました山崎と申します。

着任してあつという間に3か月が過ぎましたが、係の守備範囲の広さと財務会計システムに悪戦苦闘しています。こんな中、皆さんに支えられ、とても有り難く思っています。

早く仕事に慣れるよう努めますので、ご教示のほどどうぞよろしくお願ひいたします。



### 2度目の福井高専

学生課 教務係長

諫訪 泰重

7月1日付けで学生課教務係長を拝命いたしました諫訪です。表題にもございますように約13年ぶり2度目の福井高専ですが、異動の内示後は当然、不安で一杯でした。そのような中、前係長との引継ぎに伺った際に複数の先生方よりお声掛けをいただき、大変心強く感じましたし、着任後に懐かしい教職員の皆様のお顔を拝見し、不安がいくらか解消しました。今後は一刻も早く仕事を覚え、福井高専の発展に少しでもお役に立てるよう、鋭意努力する所存ですので、何卒よろしくお願ひいたします。



### 四苦八苦の日々

総務課 財務係

砂田 章宏

はじめまして。7月1日付けで総務課財務係に着任しました砂田と申します。

これまで福井大学にて勤務していましたが、今回福井高専に異動となり、今まで経験のなかった新しい仕事に毎日、四苦八苦しながらも、周りの皆様の温かいサポートおかげで何とかこなしていると

といった感じです。

早く仕事に慣れて福井高専の発展に少しでも寄与できるように頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

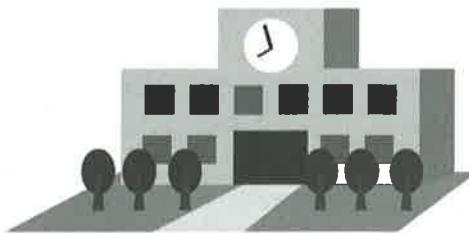


### 本校に着任して

学生課 学生生活係

駒野 遥花

7月1日付けで学生課学生生活係に着任しました駒野と申します。前部署は福井大学国際課で、事情を知る人からは「あの（大）変なところから・・・」という反応をされるような課出身ですが、入職後4年間ずっと親しんだ職場を離れるときは、ふるさとを去るような寂しさがありました。引っ越し、転職、異動など、今まで何度か“移る”経験をしていますが、そのときに感じる寂しさには未だに慣れません。ですが、移る度にhomeと呼べる場所が増えていくのは嬉しいことです。ここ福井高専もhomeの一つと思えるよう、皆さまのお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



## 中学生の皆さん

### 中学校だより

### 創立9年目を迎えて

越前町立 朝日中学校

本校は、平成21年に旧朝日中学校と旧糸生中学校が合併して新設された学校であり、今年で開校9年目を迎える。現在、293名の生徒が在籍している。まだ新しい校舎はガラス張りで日当たりがよく、広々とした廊下やホールで、生徒たちは伸び伸びと学校生活を送っている。全校生徒が一緒に昼食をとれるランチルーム、AV機器が備え付けられた英語室や研修室、全生徒のロッカーが確保された更衣室など、設備も充実している。

本校の生徒は、「時を守る。場を淨める。礼を尽くす。」をモットーに、「2分前入室、1分前自習」をはじめ、「黙動清掃」や「あいさつ」の励行を心がけている。部活動にも熱心に取り組んでおり、特に盛んなのはホッケーである。今年は男子ホッケー

部が北信越優勝（3連覇）、全国大会ベスト8、女子ホッケー部が全国大会優勝（4連覇）という快挙を成し遂げた。

学校行事にも力を入れており、今年度からは、新たに県の指定校として「地域と進める体験活動」に取り組んでいる。今年の学校祭では、地域の方々を講師として招き、勾玉作り、手品、カンフー、抹茶体験のコーナーを開設したが、とても好評だった。また、3年生の総合的な学習でも、地域の方々に協力してもらい、町内の企業や文化財を見学したり、体験活動をしたりすることになっている。このような活動を通してふるさとに対する理解を深め、誇りを持って学んでいける生徒を育てていきたいと考えている。



# 新入生オリエンテーション・舞鶴高専交歓試合等風景



新入生オリエンテーション①



新入生オリエンテーション②



球技大会



体育祭



結団式



舞鶴高専交歓試合